

前沢・南町9条の会「平和を語る集い」

11月26日13:30から南町地区センター第1・2会議室で「平和を語る集い」が16名の参加者で行われました。今回の集いは、参加されます皆さんの絵や写真の展示をお願いして思い出の品やご趣味でされている作品をお持ち頂き、お話をさせていただきました。

おもな内容は

- 自己紹介
- 古田足日先生の作品紹介(先生の経歴紹介と作品の紹介、朗読は東久留米で活躍の1人芝居の楯岡真弓さんをお願いしました)
- 武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会の事務局長 牛田守彦さんの東久留米の空襲についてお話をお願いしました。

自己紹介から

3月10日は昼間のように明るかった、一杯でも会社に水をかけたかった。永代橋の上で真っ黒な人を見た。終戦のときは、新しい憲法ができたとき、幼子をぎゅっと抱きしめ、この子はもう人殺しをしないで生きていけると思いました。戦争の悲惨さや、やってはいけないことを伝えて行きたい。戦争を起ささないために何かの力になりたい。保育園で演じた楯岡先生の思い出。娘が学童に行っていたときに地雷が埋まっているのを知った。広島の世界遺産になった平和公園ドームの写真の中に、高層マンションが写る。さくら隊(慰問劇団)広島で被弾、原爆症の第一号の犠牲者。太平洋戦争が始まったとき2年。

長野県でB29を見た。父も戦争で負傷徹夜で仕上げた父母と私の記録。孫の宿題で書いた空襲の体験記:東京空襲7-10日間隔が頻繁になってきた。2回の焼失、東京の大部分が空襲、外食券による食事、長野に疎開、終戦の翌々年に東京に戻った。満員列車のデッキに掴まり買出し。中野で空襲5/25、戦後0からの出発、戦争は絶対反対、これからの日本をよくしていかなければ。上野の地下道に傷痍軍人や不浪児、小学校の入学式に日の丸に挨拶が気になった。人の嫌がる日の丸や君が代の強制は嫌だ。

•古田足日先生の作品紹介

•経歴紹介

- 1927年11月29日生まれ
- 1956年 現代児童文学論
- 1960年 日本児童文学者協会新人賞
- 1966年 「宿題ひきうけ会社」
日本児童文学者協会賞
- 1993年 『全集 古田足日 子どもの本』(全14巻)
- 2004年 「わたしたちのアジア・太平洋戦争」編纂

•作品の紹介(朗読:1人芝居の楯岡真弓)

- 1)緒方麗子さんの古田作品の書評
- 2)「おいしいのぼうけん」1974年

東久留米市地域の空襲被害と戦争遺跡について 武蔵野の空襲を記録する会事務局長 牛田守彦

1. 東久留米市と戦争

- (1)自由学園
- (2)中島金属への引込み線
- (3)学童疎開、疎開工場
- (4)北多摩陸軍通信所
- (5)その他の軍事関係施設

2. 東久留米に空襲? - - なぜ?

- (1)中島飛行機製作所と空襲
- (2)初期空襲の被害
- (3)1945年4月2日の空襲